

星 亮一著 「会津藩流罪
故郷を追われた難民からの再出発」

著者の星亮一氏は福島民報記者、福島中央テレビ報道制作局長を経て現在は郡山市在住、会津藩をはじめ幅広い著書を持つ歴史作家である。東日本大震災後は福島、宮城、岩手県の被災地をリポートし、歴史を通じて復旧、復興、現在、未来への提案を行っている。

「会津藩流罪 故郷を追われた難民からの再出発 復旧、復興に六十年」は全17章より構成されている。会津藩は戊辰戦争に敗れ、青森県と北海道の一部に「斗南藩」として再興す

書評

る。その苦悩と努力、復興の軌跡を豊富な史料と写真を活用し紹介している。斗南藩は約1年9カ月しか存在しておらず史料はとても希少である。

著者は、会津藩の悲劇と東日本大震災、原発事故で故郷を離れている被災者を重ね合わせ、歴史から復興の参考となるよう提案している。例を挙げると、被災者の児童生徒への教育環境の重要性についてである。会津藩は「藩校日新館」があり学問を重視する教育熱心な藩であった。斗南藩に

堀内 彩子

歴史通じ復興提案

なつてからもすぐに「斗南日新館」を運営し、子弟教育に力を注いだ。廃藩置県となつても得意分野の学問により教育界にて生計を立て、地域に貢献した人が多い。

また第4章「移住者たちの記録」では、会津人の一般女性についても史料より軌跡をたどっている。一人一人の存在意義、命の重みについても考えさせられる。

一章ずつが要所を押さえてまとめられており、読みやすい内容となっている。表装や風景写真に元斗南藩領地であるむつ市在住の田畑俊次郎氏を起用している。地元人が撮影する風景の美しさ、魅力に触れながら本を読み進めることができ興味深い。あとがきでの著者の言葉に「ときには歴史に学ぶべし」とある。人は生きていく上で逆境と向き合うことがある。それをい



※「会津藩流罪 故郷を追われた難民からの再出発」は批評社刊、定価2100円。

(ほりうち・さいこ) 三沢市先人記念館学芸員、三沢市在住